

## 2024(令和6)年度 医療情報科学特論 時間割表

1・2・3・4年次 前期

R6.4.1 現在 (敬称略)

週	開講年月日	曜日	時限	授業科目	授業担当教員	受入可否	受講条件
1	令和6年4月6日	土	1・2	医療情報科学特論	半谷 眞七子	可	条件なし
2	令和6年4月20日	土	1・2		半谷 眞七子	可	条件なし
3	令和6年4月27日	土	1・2		半谷 眞七子	可	条件なし
4	令和6年5月11日	土	1・2		亀井 浩行	可	条件なし
5	令和6年5月18日	土	1・2		亀井 浩行	可	条件なし
6	令和6年5月25日	土	1・2		亀井 浩行	可	条件なし
7	令和6年6月1日	土	1・2		藤井 正徳	可	条件なし
8	令和6年6月8日	土	1・2		藤井 正徳	可	条件なし
9	令和6年6月15日	土	1・2		藤井 正徳	可	条件なし
10	令和6年6月22日	土	1・2		大津 史子	可	条件なし
11	令和6年6月29日	土	1・2		大津 史子	可	条件なし
12	令和6年7月6日	土	1・2		大津 史子	可	条件なし
13	令和6年7月13日	土	1・2		田辺 公一	不可	
14	令和6年7月20日	土	1・2		田辺 公一	不可	
15	令和6年7月27日	土	1・2		田辺 公一	不可	
備考	講義室：新1号館 3階 306 大学院演習室 講義時間帯：1時限 9:10~10:40 2時限 10:50~12:20 3時限 13:10~14:40 4時限 14:50~16:20 ※ 履修登録後、履修希望者が無い授業科目は、閉講とします。						

時間割番号	761109
科目名	医療情報科学特論
科目名(英字)	Advanced Health Care Information Science
担当者氏名	亀井 浩行 藤井 正徳 田辺 公一 半谷 眞七子 大津 史子
対象研究科・専攻	薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)
講義学期	前期
単位数	4

準備学習・事後学習	学部(または大学院修士課程)における薬物治療学、医薬品情報学、コミュニケーション学、医療制度論、臨床薬理学、医療経済学等の基礎知識を身につけていること。 学習後は、それぞれの学習の内容について、確実に振り返ること。
授業の概要と目的	医薬品の適正使用、医療の質の向上に貢献できる研究能力を養成するために、医薬品や医療行為等に関する様々な医療情報の集積、有効性・安全性について治療学的、医療薬学的、医療経済学的な評価に関する専門的な知識を習得する。そのため医薬品情報学、医療経済学、臨床薬理学、医療コミュニケーション、医療倫理学、薬剤疫学、社会薬学の基礎と応用について包括的に講義する。
該当するCP(カリキュラム・ポリシー)およびDP(ディプロマ・ポリシー)	本授業はCP①③④およびDP①に該当する。
科目ナンバリングコード	特になし
到達目標	この分野の研究に必要な先端技術・専門知識を学ぶとともに、医薬品適正使用の方法論についても議論し、先導的な研究を推進する基本についても理解を深める。

項目	【項目欄】	【内容欄】
1.	医療コミュニケーション(Health communication)概論1 担当: 半谷	コミュニケーションの理論体系: 医療コミュニケーションの定義とコミュニケーションと保健行動説明するための医療コミュニケーションモデルを概説する。
2.	医療コミュニケーションの評価・分析方法 担当: 半谷	医療コミュニケーションで多用される背景理論、研究手法を概説する。
3.	実証研究の紹介1 担当: 半谷	会話分析の一つであるRoter Method of Interaction Analysis Systemの理論的背景と分析方法を概説する。
4.	実証研究の紹介2 担当: 半谷	ナラティブ分析の理論的背景と分析方法を概説する。
5.	対人コミュニケーション1 担当: 半谷	医療コミュニケーションの実践例の紹介と演習(SPIKESプロトコルを活用した対応)
6.	対人コミュニケーション2 担当: 半谷	医療コミュニケーションの実践例の紹介と演習(模擬患者を活用した対応)
7.	精神疾患の基礎 担当: 亀井	統合失調症及びうつ病を含む気分障害などの精神疾患の臨床症状の理解を深める。
8.	精神疾患の問題点とその評価1 担当: 亀井	代表的な精神疾患の症例1の問題点を把握するとともに、症例の症状や副作用についての評価を習得する。
9.	精神疾患への対応1 担当: 亀井	症例1に対して、実際に初回インタビュー、服薬指導に関するロールプレイを行う。
10.	精神疾患の問題点とその評価2 担当: 亀井	代表的な精神疾患の症例2の問題点を把握するとともに、症例の症状や副作用についての評価を習得する。
	精神疾患への対応2	症例2に対して、実際に初回インタビュー、服薬指導に関する

授業内容

11	担当：亀井	ロールプレイを行う。
12	精神疾患への対応3 担当：亀井	精神疾患症例の治療歴を解析し、処方提案や患者支援の方策について討議する。
13	臨床薬理（1）藤井	アトピー性皮膚炎の病態、発症メカニズムおよび治療薬の薬理について概説する。
14	臨床薬理（2）藤井	最新のアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを用いて、本疾患についてさらに深く学ぶ。
15	臨床薬理（3）藤井	痒みの分子メカニズムについて概説する。
16	臨床薬理（4）藤井	最新の皮膚癢痒症診療ガイドラインを用いて、痒みとその治療についてさらに深く学ぶ。
17	臨床薬理（5）藤井	食物アレルギーの病態、発症メカニズムおよび治療薬の薬理について概説する。
18	臨床薬理（6）藤井	最新の食物アレルギー診療ガイドラインを用いて、本疾患についてさらに深く学ぶ。
19	適正使用を推進するための情報評価（1）担当：大津	薬剤疫学研究論文を批判的に吟味するための要点について概説する。19-24は、課題及び発表を含むため、途中からの受講は難しい。
20	適正使用を推進するための情報評価（2）担当：大津	課題（ベネフィット・リスクが問題となった事例）を解決するために文献検索を行い、必要な論文を選択できる。
21	適正使用を推進するための情報評価（3）担当：大津	課題を解決するために重要な論文を批判的に吟味する。
22	適正使用を推進するための情報評価（4）担当：大津	批判的に吟味し、整理した論文を基に与えられた課題について総合的に評価できる。
23	適正使用を推進するための情報評価（5）担当：大津	評価結果に基づき安全対策に関する行動計画をそれぞれの立場で立案できる。
24	適正使用を推進するための情報評価（6）担当：大津	立案した行動計画について、それぞれの立場でディベートを行い、最善の行動計画としてまとめる。
25	研究デザインと統計解析 1 担当：田辺	臨床現場で遭遇する臨床疑問を解決するために、よく用いられる研究と臨床疑問の「型」について概説する。必要に応じて、基礎統計学の範囲を振り返りながら講義を行う。25-30は課題などを行うため、途中からの受講は難しい。
26	研究デザインと統計解析 2 担当：田辺	臨床疑問の「型」に沿った研究デザインの方法を学ぶ。また、研究デザインの時点で研究計画に織り込んでおくべき交絡の制御方法、サンプルサイズの見積り方法、アウトカム設定上の注意等についても学ぶ。
27	研究デザインと統計解析 3 担当：田辺	様々な研究手法・統計解析法（特に、探索的手法・構成概念など）について学ぶ。
28	研究デザインと統計解析 4 担当：田辺	様々な研究手法・統計解析法（質問紙法、尺度開発法など）について学ぶ。
29	研究デザインと統計解析 5 担当：田辺	尺度開発法に従って尺度を作成し、それを実際に用いてその後の統計処理を学ぶ。
30	研究デザインと統計解析 6 担当：田辺	量的研究法と質的研究法、およびこれらの混合研究法について実例を見ながら学ぶ。最後に、研究デザインと統計解析 1～5のまとめと振り返りを行う。

授業方法の形式	講義、演習			
授業の実施方法	対面講義			
成績評価方法	受講態度、発表態度、課題レポートなどで評価する。 授業回数の3分の2以上の出席に満たない場合は欠格とする。			
成績評価基準	C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。			
その他（履修条件・関連科目など）	特に限定しないが、関連分野も含め大局的に理解を深めてほしい。			
テキスト	書 目	【書籍名】	【著者】	【出版社】
	1.	特になし		
	2.			
	3.			
	4.			
	5.			
参考資料文献等	書 目	【書籍名】	【著者】	【出版社】
	1.	特になし		
	2.			
	3.			
	4.			
	5.			
参考URL	書 目	表示名	URL	説明
	1.			
	2.			
	3.			
更新日付	2024/02/15 15:39:21			

## 2024(令和6)年度 薬物治療科学特論 時間割表

1・2・3・4年次 前期

R6.4.1 現在 (敬称略)

週	開講年月日	曜日	時限	授業科目	授業担当教員	受入可否	受講条件
1	令和6年4月6日	土	1・2	薬物治療科学特論	能勢充彦	可	1回目と2回目の講義はすべて受講すること
2	令和6年4月20日	土	1・2		能勢充彦	可	1回目と2回目の講義はすべて受講すること
3	令和6年4月27日	土	1・2		野田幸裕	可	1限のみ受講可
4	令和6年5月11日	土	1・2		野田幸裕	可	<b>1限のみ受講可</b>
5	令和6年5月18日	土	1・2		山本英督	可	条件なし
6	令和6年5月25日	土	1・2		山本英督	可	条件なし
7	令和6年6月1日	土	1・2		平松正行	可	条件なし
8	令和6年6月8日	土	1・2		平松正行	可	条件なし
9	令和6年6月15日	土	1・2		間宮隆吉	可	条件なし
10	令和6年6月22日	土	1・2		築山郁人	可	条件なし
11	令和6年6月29日	土	1・2		柳澤 聖	不可	
12	令和6年7月6日	土	1・2		柳澤 聖	不可	
13	令和6年7月13日	土	1・2		小島良二	不可	
14	令和6年7月20日	土	1・2		築山郁人	可	条件なし
15	令和6年7月27日	土	1・2		衣斐大祐	可	条件なし
備考	講義室：新1号館 3階 305 大学院演習室 講義時間帯：1時限 9:10~10:40 2時限 10:50~12:20 3時限 13:10~14:40 4時限 14:50~16:20 ※ 履修登録後、履修希望者が無い授業科目は、閉講とします。						

時間割番号	761110
科目名	薬物治療科学特論
科目名(英字)	Advanced Pharmacotherapeutic Science
担当者氏名	衣斐 大祐 小島 良二 築山 郁人 野田 幸裕 平松 正行 間宮 隆吉 柳澤 聖 山本 英督 能勢 充彦
対象研究科・専攻	薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)
講義学期	前期
単位数	4

準備学習・事後学習	薬理学、疾患・治療学、生薬学、漢方医学、薬効評価学など、授業計画に記載されている関連科目について復習しておくこと。講義後には2時間程度復習課題に取り組むこと。
-----------	---

授業の概要と目的	疾病の治療とともに「育薬」に貢献できる研究能力を養成するために、医薬品や伝統薬が有する薬理作用を多面的な視野で解析・評価する実践的かつ専門的な知識を習得する。そこで、薬理学、疾患・治療学、生薬学、漢方医学、薬効評価学などについて受講者参加型のグループ討論や演習的な講義を交えながら狡猾的に学ぶ。以下に示す講義をオムニバス形式で行う。
----------	--

該当するCP(カリキュラム・ポリシー)およびDP(ディプロマ・ポリシー)	本授業は、CP①③④およびDP①に該当する。
--------------------------------------	------------------------

科目ナンバリングコード	該当なし
-------------	------

到達目標	疾病の治療とともに「育薬」に貢献できる研究能力を養成するために、医薬品や伝統薬が有する薬理作用を多面的な視野で解析・評価する実践的かつ専門的な知識を習得する。
------	---

番	【項目欄】	【内容欄】
1.	生薬・漢方医薬学概論1 担当：能勢	生薬・漢方方剤の現代医療における役割や意義、社会からの期待などについて概説する(講義)。また、生薬に触れ、かつ漢方薬を調製することで、「くすり」としての伝統医薬品について体験する(実技)。
2.	生薬・漢方医薬学概論2 担当：能勢	生薬・漢方方剤に関する研究方法論について詳述する(1)。
3.	生薬・漢方医薬学概論3 担当：能勢	生薬・漢方方剤に関する研究方法論について詳述する(2)。
4.	生薬・漢方医薬学概論4 担当：能勢	生薬・漢方方剤に関して、研究提案を試みる。
5.	神経精神薬理学概論1 担当：野田	精神疾患の発症機序や治療薬の作用機構について基礎・臨床研究面から概説。
6.	神経精神薬理学概論2 担当：野田	分子標的治療の医薬開発における創薬研究と生物統計および高度ながん医療とがん研究の実践について(名大特論1)。
7.	神経精神薬理学概論3 担当：野田	生体試料の遺伝子解析による研究手法論について概説。
8.	神経精神薬理学概論4 担当：野田	生体試料を用いた遺伝子解析方法について概説・演習。
9.	循環器薬理学概論1 担当：山本	動脈硬化疾患の発生機序と薬物治療のターゲットに関する分子病態的解析をもちいた講義(1)。 到達目標：動脈硬化の病態を理解し、治療法を論理的に述べる

授業内容

		ことができる。
10	循環器薬理学概論2 担当：山本	不整脈の発生機序および電気生理学的観点からの治療薬の作用機序に関する講義(2)。 到達目標：不整脈を理解し、その電気生理学的意味をふくめて治療法について述べるができる。
11	循環器薬理学概論3 担当：山本	心機能評価法と心不全の発生機序および治療薬の作用機序に関する講義(2)。 到達目標：心機能評価法を理解し、心不全の病態を把握したうえで、治療法について述べるができる。
12	循環器薬理学概論4 担当：山本	高血圧症の分子病態学と治療指針に関する解説講義(4) 到達目標：高血圧の病態生理を理解したうえで、治療法を述べるができる。 臨床研究における統計解析法の要点と落とし穴に関する講義(5)。 到達目標：論文を批判的に読める。
13	生体機能制御学概論1 担当：平松	学習・記憶障害やその治療薬について概説するとともに、その研究・解析手法について概説(1)。
14	生体機能制御学概論2 担当：平松	学習・記憶障害やその治療薬について概説するとともに、その研究・解析手法について概説・演習(2)。
15	生体機能制御学概論3 担当：平松	基礎研究における統計解析法とその応用(PCを用いた概説・演習)(1)。
16	生体機能制御学概論4 担当：平松	基礎研究における統計解析法とその応用(PCを用いた概説・演習)(2)。
17	神経科学概論1 担当：間宮	神経科学分野における動物実験の現状を紹介し、理想的な研究のあり方を考える。
18	神経科学概論2 担当：間宮	ストレスによる神経機能障害および末梢機能障害の小動物を用いた評価方法について概説する。また、時間薬理学および時間治療学の概念と最新の研究成果について概説しながら、関連する評価方法を概説する。
19	腫瘍薬理学概論1 担当：築山	がん薬物療法における基礎的概念と抗悪性腫瘍剤の薬理学的作用について概説する。
20	腫瘍薬理学概論2 担当：築山	がん薬物療法における副作用の基礎的概念と支持療法薬の薬理学的作用について概説する。
21	腫瘍分子医学概論1 担当：柳澤	腫瘍性疾患の発生と進展の分子機序に関する基礎研究について概説する。
22	腫瘍分子医学概論2 担当：柳澤	腫瘍性疾患の発生と進展の分子機序に関する発展研究について概説する。
23	腫瘍分子医学概論3 担当：柳澤	腫瘍性疾患の発生と進展の分子機序に基づいた分子診断法・治療法に関する基礎研究について概説する。
24	腫瘍分子医学概論4 担当：柳澤	腫瘍性疾患の発生と進展の分子機序に基づいた分子診断法・治療法に関する発展研究について概説する。
25	分子細胞薬理学概論1 担当：小島	細胞のストレス応答の分子機構について概説する(1)
26	分子細胞薬理学概論2 担当：小島	細胞のストレス応答の分子機構について概説する(2)
27	腫瘍薬理学概論3 担当：築山	がん薬物療法における治療と支持療法の実際と最近の研究について概説する。
28	腫瘍薬理学概論4 担当：築山	緩和薬物療法の概念と支持療法を含めた実際の対応および最近の研究について概説する。

	29	分子神経薬理概論1 担当：衣斐	最先端の分子神経薬理学的技術を紹介し、神経精神疾患への応用研究のあり方を考える。																								
	30	分子神経薬理概論2 担当：衣斐	中枢神経疾患に関する「動物モデル」について概説し、現在汎用されている動物モデルとヒトの疾患との共通点、相違点などを紹介する。研究をする上でより良いモデル動物とは何か、を考える。																								
授業方法の形式	オムニバス方式・講義／演習など																										
授業の実施方法	対面授業																										
成績評価方法	小テスト・レポート（100%）：各担当者が講義内容の理解度を確認・評価し、各担当者の評価を総合して成績評価する。出席は加点要素とはしないが、授業回数の3分の2以上の出席に満たない場合は欠格とする。																										
成績評価基準	C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。																										
その他（履修条件・関連科目など）																											
テキスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>【書籍名】</th> <th>【著者】</th> <th>【出版社】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	特になし			2.				3.				4.				5.			
冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】																								
1.	特になし																										
2.																											
3.																											
4.																											
5.																											
参考資料文献等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>【書籍名】</th> <th>【著者】</th> <th>【出版社】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	特になし			2.				3.				4.				5.			
冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】																								
1.	特になし																										
2.																											
3.																											
4.																											
5.																											
参考URL	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>表示名</th> <th>URL</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			冊数	表示名	URL	説明	1.	特になし			2.				3.											
冊数	表示名	URL	説明																								
1.	特になし																										
2.																											
3.																											
更新日付	2023/12/19 13:29:23																										



# 2024(令和6)年度 薬物動態科学特論 時間割表

1・2・3・4年次 前期

R6.4.1 現在 (敬称略)

週	開講年月日	曜日	時限	授業科目	授業担当教員	受入可否	受講条件
1	令和6年4月6日	土	3・4	薬物動態科学特論	灘井 雅行	可	薬物動態学の基本ができていていること
2	令和6年4月20日	土	3・4		灘井 雅行	不可	基本は不可だが、薬物速度論の基礎が修得できていれば可とする
3	令和6年4月27日	土	3・4		加藤 美紀	不可	
4	令和6年5月11日	土	3・4		北垣 伸治	不可	
5	令和6年5月18日	土	3・4		北垣 伸治	不可	
6	令和6年5月25日	土	3・4		原 脩	不可	
7	令和6年6月1日	土	3・4		原 脩	不可	
8	令和6年6月8日	土	3・4		西川 泰弘	可	
9	令和6年6月15日	土	3・4		坂井 健男	可	
10	令和6年6月22日	土	3		坂井 健男	可	
			4		奥田 知将	可	
11	令和6年6月29日	土	3・4		奥田 知将	可	
12	令和6年7月6日	土	3・4		丹羽 敏幸 (遠隔講義)	不可	
13	令和6年7月13日	土	3・4		丹羽 敏幸	可	
14	令和6年7月20日	土	3・4		岡本 浩一	可	
15	令和6年7月27日	土	3・4	岡本 浩一	可		
備考	<p>講義室：新1号館 3階 306 大学院演習室</p> <p>講義時間帯：1時限 9:10~10:40</p> <p>2時限 10:50~12:20</p> <p>3時限 13:10~14:40</p> <p>4時限 14:50~16:20</p> <p>※ 履修登録後、履修希望者が無い授業科目は、閉講とします。</p>						

時間割番号	761111
科目名	薬物動態科学特論
科目名(英字)	Advanced Pharmacokinetics and Drug Delivery Science
担当者氏名	岡本 浩一 北垣 伸治 坂井 健男 西川 泰弘 丹羽 敏幸 原 脩 奥田 知将 加藤 美紀 灘井 雅行
対象研究科・専攻	薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)
講義学期	前期
単位数	4

準備学習・事後学習	物理化学、製剤学、薬物動態学、薬剤学、有機合成化学に関する基礎的知識を十分に習得しておくこと。
-----------	---

授業の概要と目的	医薬品の有用性は薬物の薬理作用のみではなく、その体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)、更にはそれを含有する製剤の特性によって影響を受ける。医薬品を適正に使用するためには、薬物および製剤の特性を深く理解し、患者個々の状態に応じて薬物の体内動態がどのように影響されるかを科学的に考慮したうえで投与設計が必要である。また、育薬という側面からは、薬物の化学構造、物理化学的および体内動態学的特性、さらに医療ニーズを考慮した製剤を開発することが望まれる。以上の観点から、薬物の体内動態および製剤開発に関して講義を行う。
----------	---

該当するCP(カリキュラム・ポリシー)およびDP(ディプロマ・ポリシー)	本授業は、DP①およびCP①③④に該当する。
--------------------------------------	------------------------

科目ナンバリングコード	特になし
-------------	------

到達目標	薬物動態科学では、薬物の化学的特性を理解し、体内動態を規定する生理的・生化学的要因を解明するとともに、薬物の体内動態を制御するためのDDSや、製剤技術の開発に関する研究を行い、医薬品の適正使用に貢献できることを目標とする。
------	---

項目	【項目欄】	【内容欄】
1.	担当者：灘井雅行	薬物体内動態とトランスポーター
2.	担当者：灘井雅行	病態および薬物相互作用による薬物体内動態の変化
3.	担当者：灘井雅行	薬物体内動態の速度論的解析と薬物投与設計の立案(1)
4.	担当者：灘井雅行	薬物体内動態の速度論的解析と薬物投与設計の立案(2)
5.	担当者：加藤美紀	薬物動態と薬物代謝酵素
6.	担当者：加藤美紀	薬物代謝酵素を介した薬物相互作用
7.	担当者：北垣伸治	薬物動態と化学構造(1)：経口吸収と化学構造(1) 薬物動態と化学構造1~4では、内容の連続性が高く、順番に受講することが望ましい
8.	担当者：北垣伸治	薬物動態と化学構造(2)：経口吸収と化学構造(2) 薬物動態と化学構造1~4では、内容の連続性が高く、順番に受講することが望ましい

授業内容

9.	担当者：北垣伸治	薬物動態と化学構造（3）：分布、代謝と化学構造 薬物動態と化学構造1～4では、内容の連続性が高く、順番に受講することが望ましい
10	担当者：北垣伸治	薬物動態と化学構造（4）：代謝と化学構造 薬物動態と化学構造1～4では、内容の連続性が高く、順番に受講することが望ましい
11	担当者：原 脩	ホストとゲスト（1）
12	担当者：原 脩	ホストとゲスト（2）
13	担当者：原 脩	静的分子認識と動的分子認識（1）
14	担当者：原 脩	静的分子認識と動的分子認識（2）
15	担当者：西川泰弘	ペプチド化学合成法の基礎と新技術（1）
16	担当者：西川泰弘	ペプチド化学合成法の基礎と新技術（2）
17	担当者：坂井健男	化合物の合成戦略（1）：逆合成解析の基本と考え方について講義する。
18	担当者：坂井健男	化合物の合成戦略（2）：反応結果や選択性をどう予測するかについて講義する。
19	担当者：坂井健男	最近の有機合成化学：合成化学における研究テーマの設計の仕方などを講義する。
20	担当者：奥田知将	ナノDDS製剤の開発（1）：薬物封入ナノ粒子の調製および評価法について講義する。
21	担当者：奥田知将	ナノDDS製剤の開発（2）：薬物封入ナノ粒子の調製を体験する。
22	担当者：奥田知将	ナノDDS製剤の開発（3）：薬物封入ナノ粒子の評価を体験する。
23	担当者：丹羽敏幸	製剤開発の潮流と展望（1）
24	担当者：丹羽敏幸	製剤開発の潮流と展望（2）
25	担当者：丹羽敏幸	製品化戦略と付加価値製剤（1）
26	担当者：丹羽敏幸	製品化戦略と付加価値製剤（2）
27	担当者：岡本浩一	吸入剤評価法（1）：吸入剤評価法の理論と手法について講義する。
28	担当者：岡本浩一	吸入剤評価法（2）：吸入剤評価法の理論と手法について講義する。
29	担当者：岡本浩一	吸入粉末剤開発法（3）：吸入粉末剤開発の基礎研究例を紹介する。
	担当者：岡本浩一	臨床使用荒れている吸入剤：臨床使用されている吸入剤を紹介

	30	する。																								
授業方法の形式	複数の教員によるオムニバス形式の講義を中心に、発表、討論、演習等の講義形態も取り入れて、理解を深める。																									
授業の実施方法	対面授業																									
成績評価方法	レポート、発表、討論、演習の成果や質疑応答の内容などから、大学院生としての能力を総合的に評価する。																									
成績評価基準	出席状況・態度（30%）、レポート（40%）、関連分野の勉学態度とその内容（10%）、試験等（20%）により成績を評価し、教員ごとの成績を総合的に判断する。 授業回数の3分の2以上の出席に満たない場合は欠格とする。																									
その他（履修条件・関連科目など）	薬物動態科学特殊研究Ⅰ～Ⅳを履修する。また、名古屋大学大学院医学系研究科関連講義・演習等を必要に応じて受講する。																									
テキスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>【書籍名】</th> <th>【著者】</th> <th>【出版社】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>適宜、指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	適宜、指示します。			2.				3.				4.				5.			
冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】																							
1.	適宜、指示します。																									
2.																										
3.																										
4.																										
5.																										
参考資料文献等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>【書籍名】</th> <th>【著者】</th> <th>【出版社】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>適宜、指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	適宜、指示します。			2.				3.				4.				5.			
冊数	【書籍名】	【著者】	【出版社】																							
1.	適宜、指示します。																									
2.																										
3.																										
4.																										
5.																										
参考URL	<table border="1"> <thead> <tr> <th>冊数</th> <th>表示名</th> <th>URL</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		冊数	表示名	URL	説明	1.				2.				3.											
冊数	表示名	URL	説明																							
1.																										
2.																										
3.																										
更新日付	2023/12/19 12:01:53																									